ISSN 1343-0947

一般社団法人 ญี่ปุ่น-မြန်မာချစ်ကြည်ရေးအသင်း

日本ミャンマー友好協会報

第164号
令和元年8月発行
発行人：米村紀幸
編集人：松尾義久

一般社団法人 日本ミャンマー友好協会　E-mail●tzkosm@abelia.ocn.ne.jp　http://jmfa-main.com/
●本　部 〒160-0012 東京都新宿区南元町13-3-504　TEL.03-6380-0409
●広報部 〒243-0017 神奈川県厚木市栄町1-2-2-322　FAX.046-224-3011

ヤンゴンのランドマーク、さくらタワーの周辺風景（撮影／神戸ミャンマー皆好会）

収録内容

巻頭言……2
令和元年度総会……3
本部だより ……4～5
新しい法人会員のご紹介 ……5
関西支部だより ……6
第2回ミャンマービジネスセミナー ……7
「ミャンマー経済最新情報」開催のご案内 ……7
ミャンマーの心臓部
　ヤンゴン市の都市鉄道開発 ……8～9
ミャンマーからますます目が離せない
　やはりアジアのフロンティア! ……10
先生、「ひじき」って、何ですか? ……11
令和に希みて　平成に別れを ……12
神戸ミャンマー皆好会を訪ねて ……13
表紙に寄せて① ……13
ビルマ方面戦没者慰霊大法要開催 ……14
激戦の地に平和資料館開館
　「インパール作戦」写真など展示……15
表紙に寄せて② ……15
協賛企業……16
編集後記「ヤダナー」 ……16

京都・壬生（みぶでら）寺様の境内にある当協会広報掲示板
15ページ記事より

東京本部（新宿）HP▶

当協会はミャンマー関係で唯一外務省から認知されている一般社団法人です。

巻頭言　ミャンマー、明るい経済見通し

一般社団法人 日本ミャンマー友好協会
会長　米村 紀幸

1.　2020年のミャンマー経済の見通しは、明るいようである。最近のNNAの報道によれば、英国調査会社のレポートとして、約7割の会社社長は、明るい展望をもっているとのことである。NLDにとっては、グッドニュースであろう。

2.　2020年は、選挙の年である。アウンサンスーチー国家顧問、ウイン・ミン大統領が立候補することがNLD報道官から述べられている。選挙の模様がどうなるか、日本の関係者にとっても、大いに注目されるところである。軍人政党USDPのほうでも、体制立て直しが伝えられており、また、少数民族の政党、新規政党の動きなど混戦が予想される。とりわけ、ここ数年の経済の停滞もあり、NLDがどれだけ議席を確保できるか、今後のミャンマーの政治、経済にとっておおきな意味をもつ年になる。

3.　この夏の大きな話題は、電力料金の引き上げである。7月1日　電力・エネルギー省は値上げを発表した。値上げの内容は、家庭向けで最大3倍、事業用、80%と大きい。

電気料金は、これまで、政治的配慮から原価割れで低く抑えられていた。ミャンマーの電力の普及率は、約50%で、普及率向上が急務であるが、電力が事業として成立するためには、料金の値上げが必要であることが世銀はじめ海外の専門家、事業者から指摘されてきた。特に、ナショナルグリッドに連携しない農村部では、外資による電力開発を進める必要があり、このためには、採算にのる事業として料金問題が解決されなければ進捗しない。

当然、消費者からの反発が伝えられているが、これを押し進めないとミャンマーの未来はない。

4.　上記に関連するが、ようやく代替エネルギーの必要性が認識され、電力・エネルギー省において法案作成の検討委員会がスタートした。

地方での電力不足解消には、地産地消型の小規模代替エネルギーの開発が必須であり、すでに、アジアの国々からの参入が伝えられている。この面での日本企業の参入も大いに期待されているところであり、我々も何らかの形で支援できればと考えている。

ここでの問題の1つは、決済通貨である。長期にわたる投資になるので、ドル建てで投資資金が回収されないと、なかなか進まないであろう。現に、この点でもめている案件があるとのこと。

5.　UMFCCI,ミャンマー商工会議所連合会が、設立100周年を迎える。9月20日(金)～22日(日)まで記念行事が盛大に開催される。UMFCCIには、何かとお世話になっており、多くの日本企業が何らかの形で参加できればと思う。

6.　ロヒンギャ問題は、なかなか解決の目途がつかないようである。多くの識者は、動きはないと見ている。投資、観光への影響は避けがたい。これに関連して中国との接近が気になるところである。一帯一路政策は、ミャンマーにも忍びよっている。

7.　協会活動としては、以下のような状況である。

1）ミャンマー祭りへの参加（5月25日、26日、芝増上寺）
・今回は、2ブースを設け、展示、観光PRなどを行った。
・ミャンマー大使ご夫妻、安倍明恵夫人にブースに立ち寄っていただいた。

2）令和元年総会（6月23日）
・今年もミャンマー大使館からの参加者のほか、ミャンマーダンスの余興があり、楽しく歓談の場をもつことができた。
・総会、懇親会の模様は、別途、HPに掲載している。
・来年は、オリンピックの年であり、5月開催を予定している。

3）大阪でのミャンマーセミナー（9月2日）
・関西支部により、企画、実施される。
・案内は、HPに掲載する。

4）下田での映画上映；(9月下旬)
・にっぽん娘；合作映画
・下田市はじめ、地元団体の協力をえて開催する。詳細は、別途、掲載する。

8.　ミャンマー経済投資センター
・7月30日、第60回の例会を開催する。今回は、AOTS（海外産業人材育成協会）のミャンマーOB会の方、4人を招き懇親の場も設ける。なお、MOUを結んでいる。
・2019年度もミャンマーの地方都市において、中小企業セミナー、ビジネス交流会を計画している。
・このところ、個別案件の相談も増えていており、ようやく、経済投資センターの活動が認知されてきたところである。

9.　最後に、われわれは、ミャンマーとの二国間関係のみで状況を見てしまうが、アジア諸国、近隣関係の動きをみながら、出遅れることなく効率のよい活動を考える必要がある。

一般社団法人日本ミャンマー友好協会　令和元年度総会

令和元年6月23日(日)
霞が関ビル35階 東海大学校友会館

総会には約50名の方が参加され、和気あいあいの内に終了することができました。大使館からはキンニラソー公使など5名、さらに大島賢三元国連事務次長・国連大使のご来席がありました。徳島、大阪、名古屋などからの参加もありました。

挨拶を述べる米村会長

大使に代わり祝辞を代読されるキンニラソー公使

熱心に講演する藤村建夫監事

乾杯の挨拶柴崎等監事

挨拶される大島賢三元国連大使

懇親会の様子

輪になって踊る

踊りの大好きな大使館の皆さん

集合写真

一般社団法人　日本ミャンマー友好協会　令和元年度役員名簿

会長	米村　紀幸	理事	古川　健士	監事	渡邉　奉勝
副会長	高松　重信	理事	イーイーミン	名誉顧問	千野　皓司
副会長	髙橋　秀夫	理事	イイキン	顧問	田島　高志
副会長	三宅　紘一	理事	キンチー	顧問	山口　洋一
専務理事	都築　治	理事	伊藤秀以智	顧問	津守　滋
常務理事	山下　賢一	理事	水戸部麻里	相談役	安城　欽寿
常務理事	新美　鉄雄	理事	角谷　猛志	相談役	池田　正隆
理事	山田　長満	理事	木村　憲二	参与	湯ノ口俊市郎
理事	田中　進	理事	倭　昌輝	参与	浅野　靜二
理事	松尾　義久	監事	藤村　建夫		
理事	丸山　憲治	監事	柴崎　等		

支部：関西、関東、愛知、四国、ヤンゴン、三重

本部だより

令和元年3月～7月の活動（新しい順に記載）

山田長満理事受勲される

当協会理事で川崎商工会議所会頭の山田長満さんが、本年5月に旭日中綬章を受章されました。

山田会頭は、当協会のために長らく事務所の便宜を図ってくださいました。新宿の住友不動産ビルということもあり、当協会のイメージアップにつながりました。

ミャンマー映画上映に当たっては、毎年多額の協賛金を寄進していただいています。

山田会頭、おめでとうございます!

ミャンマー経済・投資センターのセミナー

日時：令和元年7月30日（火）
15：00 ～ 17：00
（受付開始/14：30）
会場：ホテルグランドヒル市ヶ谷
「翡翠の間」（東館3階）
〒162-0845
東京都新宿区市谷本村町4-1
TEL：03-3268-0111
URL：http://www.ghi.gr.jp
JR、東京メトロ、都営新宿線の市ヶ谷駅から徒歩3分
会費：当センターの会員は無料。
一般は5,400円（税込）。
募集人数：50名
- 15：00　開会挨拶
- 15：05 ～ 15：35
講演①
「ミャンマー水処理事業参入について」
株式会社神鋼環境ソリューション
営業本部　営業統括部
海外営業室　室長 山形 成生 氏
質疑
- 15：40 ～ 16：10
講演②
「ダウェイ開発の最近の状況について」
経済産業省貿易経済協力局
通商金融課　課長　浦田 秀行 氏
質疑
- 16：10 ～ 16：50
AOTS OB 会メンバーのご挨拶（通訳あり）
- 17：00　閉会挨拶
ミャンマー経済・投資センター
理事長 米村 紀幸

令和元年総会次第

日時：令和元年6月23日（日）
14：00 ～ 17：00
会場：霞が関ビル35階　東海大学校友会館
- 総会（14：00 ～ 14：30）
定足数報告
代表挨拶
議長選出、議事録署名人選出
議案
1.2018年度事業報告及び決算報告について
2.2019年度事業計画及び予算案について
3.役員改選について
4.その他
- 報告事項
1.ミャンマー経済・投資センターの活動
2.支部活動
3.ミャンマー祭り報告
4.ロゴマーク制定について
- 講演会（14：30 ～ 14：50）
講師：藤村建夫氏
題目：バガン近郊での植林活動
- 懇親会
1.会長挨拶（15：00）
2.駐日ミャンマー大使閣下ご挨拶（代読）
3.乾杯（15：10）　柴崎 等監事
4.飲食（15：10 ～ 15：30）
5.伝統芸能（15：30 ～ 15：50）
6.来賓挨拶等（15：50）
7.懇談
8.抽選会（16：30）
9.写真撮影（16：40）
10.閉会の言葉（16：55）
木村憲二関西支部長

総会運営実行委員会

日時：令和元年6月11日（火）17：30から総会運営実行員会を開催
場所：（財）商工会館　霞ヶ関ビル裏側

第58回ミャンマー経済・投資センター例会

日時：2019年5月28日（火）
15：00 ～ 17：00
（受付開始/14：30）
会場：ホテルグランドヒル市ヶ谷
「翡翠の間」（東館3階）
〒162-0845
東京都新宿区市谷本村町4-1
TEL：03-3268-0111
URL：http://www.ghi.gr.jp
会費：当センターの会員は無料。
一般は5,400円（税込）。
講演①
「ミャンマーにおけるフードバリューチェーン(FVC) 構築推進について」
農林水産省 大臣官房国際部
海外投資・協力グループ
国際交渉官　木下　博晶　氏
講演②
「ミャンマーの貿易展望～幸運は訪れるか、幸運を掴むことはできるか～」
国際貿易投資研究所
研究主幹　大木　博己　氏
報告
ミャンマー経済・投資センター
理事長　米村　紀幸

令和元年度第1回理事会

日時：令和元年5月11日（土）
15：00 ～ 17：00
場所：ビジョンセンター浜松町
議題：
1.決算報告と事業報告承認の件
2.予算案、事業計画案
3.役員改選について
4.総会準備
5.ミャンマー祭り
6.JMEIC活動報告
7.特別事業
8.支部活動
9.その他

ミャンマー経済・投資センター例会

日時：2019年4月17日（水）
15：00 ～ 17：00 受付開始14：30
会場：霞が関ビル35階　東海大学校友会館
東京都千代田区霞が関3丁目2−5
TEL：03-3581-0688（代表）
http://www.tokai35.jp/
講演①
「ミャンマーにおける伝統医薬品の改善、向上」
（JICA草の根技術協力事業））
富山大学・和漢医薬学総合研究所
研究員 紺野　勝弘　氏
講演②
「ミャンマー食品加工産業の可能性と課題」
JETRO ビジネス展開支援部途上国開発課 菊池　芙美子　氏
ミャンマー経済・投資センター
理事長　米村　紀幸

理事会

日時：3月30日（土）15：00 ～ 17：00
場所：ビジョンセンター浜松町（東京都港区浜松町2-8-14 浜松町TSビル 6階A室
議題等：会計報告
2019年度事業計画
ミャンマー映画上映報告
ミャンマー祭り準備
5月25日（土）、26日（日）
総会準備
6月23日（日）
JMEIC報告
ミャンマー映画上映
支部報告
その他

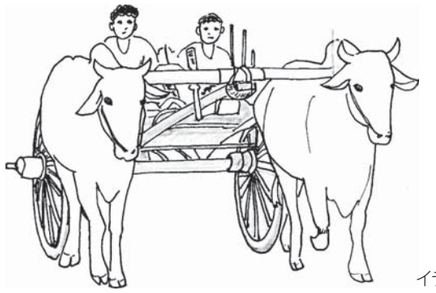
ミャンマー経済・投資センター・セミナー

日時：2019年3月29日（金）
15：00 ～ 17：00
受付開始14：30
会場：霞が関ビル35階　東海大学校友会館　霞の間
東京都千代田区霞が関3丁目2−5
TEL：03-3581-0688(代表)
http://www.tokai35.jp/
東京メトロ虎ノ門駅から徒歩3分
講演：
「2019年ミャンマーの展望と課題」
外務省南東アジア一課長
斉田　幸雄　氏
「JICAの電力・エネルギー分野における協力事業～民間連携促進に向けて～」
JICA産業開発・公共政策部
資源・エネルギーグループ参事役
第一チーム 課長　譲尾　進　氏
報告：
「ザガイン地域におけるミャンマー投資セミナーについて」
ミャンマー経済・投資センター
理事長　米村　紀幸

訃報

外務省職員・小山智史さん死去

ニュースでも大きく取りあげられた、川崎市多摩区の事件で外務省職員小山智史さんが5月28日不慮の死を遂げられました。39歳ながら仕事の有能ぶりから「日本とミャンマーとの宝」とも報ぜられ、当協会のありようにも一方ならぬ理解をいただいていただけに残念でなりません。謹んでご冥福をお祈りします。

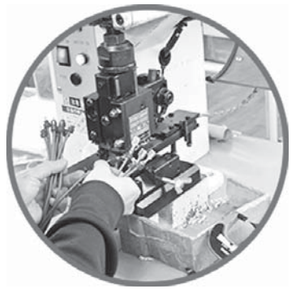


イラスト：とみざわ　えりこ

新しい法人会員のご紹介

6月に新たに会員になられました

株式会社山梶製作所
代表取締役　山梶　源時
本社：〒521-1342　滋賀県近江八幡市安土町上出313-4
電話：0748-46-3039（代）



当社は、あるあらゆる装置、機械に使用されているワイヤーハーネスの製造を専門におこなっている会社です。創業半世紀、経験や実績が豊富で、建設機械用、農業機械用、産業機械用、車載用など様々な用途で利用されるワイヤーハーネスを製造してまいりました。自社一貫製造の強みを活かし、1回路から500回路まで、多品種、小ロットや短納期などお客様のご要望にお応えし、確かな品質と柔軟な対応が弊社の強みです。ワイヤーハーネスの製造ならは山梶製作所にお気軽にご相談ください。

•完全自社一貫製造で安心・高品質を実現します。
•小ロット・1本から、短納期などご要望に柔軟にお応えいたします。
•建設機械用、農業機械用、産業機械用など多品種に対応　＜同社HPより＞

関西支部だより

第1回ミャンマービジネスセミナー、盛況のうちに終了

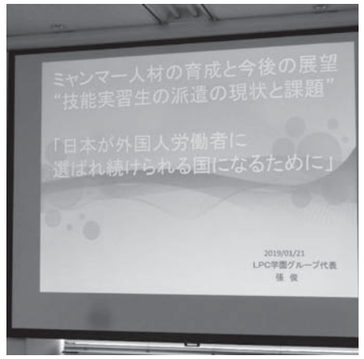
〈日時〉
平成31年1月21日（月）14：00 ～ 16：30
〈場所〉
ジェトロ大阪本部　セミナールーム
〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13
大阪国際ビルディング29階
〈事業成果〉
参加者総数80名で、ミャンマー渡航歴有の参加者が41. 5%、渡航歴無しの参加者が59%と、過半数がミャンマーへ行ったことのない参加者であった。
セミナーの内容については、「大変役に立った」および「役に立った」が68%で、「普通」26%、「あまり役に立ちそうにない」が1%と、満足いただけた事業内容であった、と評価できる。
〈参加者数〉
80名
〈後援等団体〉
共催：日本貿易振興機構(ジェトロ)大阪本部
共催：大阪商工会議所
後援：一般社団法人大阪府中小企業診断協会

会場受付

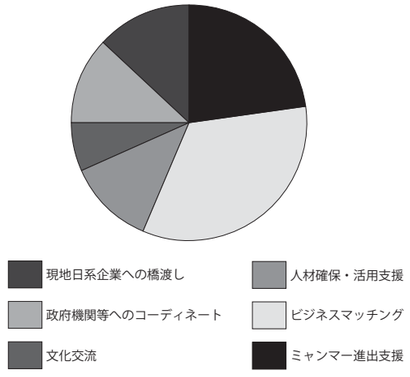
司会の木村関西支部長

開催者代表あいさつ　米村会長

活発な交流の時間が流れる会場



友好協会への期待（複数回答・件）



ミャンマー進出支援	21
ビジネスマッチング	31
人材確保・活用支援	11
文化交流	6
政府機関等へのコーディネイト	11
現地日系企業への橋渡し	12

関西支部よりお知らせ

第2回ミャンマービジネスセミナー ～ミャンマー:今後のビジネスチャンスを見つける～

IMFの見通し、なんと経済成長率6%以上！第2回ミャンマービジネスセミナーのご案内です

人口5,100万人と日本の約1.8倍の国土を擁し、民主化が進むミャンマーは、経済成長率が本年6.45%、6.59%（2020年IMF見通し）と潜在成長率の高いビジネス市場として世界から脚光を浴びています。
第1回に続き、第2回目は、ミャンマーでの開発状況を中心に、現地でのビジネスチャンスをさがすためのセミナーを開催いたします。
鉄道インフラの事業展開、進出企業による事例紹介、ミャンマー人材活用など生の最新情報を提供します。
とくに、鉄道ビジネスのモデルは、輸送ビジネスに始まり、今後、ターミナル駅の商業施設、沿線での住宅・工業団地開発に留まらず、郊外の観光・娯楽産業へと、かなり幅広いビジネスへと広がりを見せていくことになります。ビジネス成功の秘訣は、タイミングと先見性と言われています。
皆様の積極的なご参加をお待ちしています。

【日時】 2019年9月2日（月）
14時00分～ 17時00分
（受付時間 13時30分～）
【会場】 グランフロント大阪カンファレンスルームタワー（JR大阪駅直結すぐ）
〒530-0011 大阪府大阪市北区大深町3−1
【プログラム】
※講演内容は変更になる可能性があります。
1）開会挨拶 西野恭子JICA関西所長
〔ミャンマーへの国家支援〕
2）「JICAのミャンマー支援」（JICAのミャンマーでの支援策の実績および今後の計画説明）
JICA専門職員（東南アジア・大洋州部 東南アジア4課）予定
〔ミャンマー鉄道支援〕
3）「ミャンマー鉄道の今とこれから、そして民間企業の役割」
高松重信 日本ミャンマー友好協会副会長、JICAミャンマー鉄道政策・技術顧問
〔日本企業ビジネス支援〕
4）「ミャンマービジネスのきっかけと展開」（仮題。関西地区の企業で、SDGsビジネスあるいは中小企業支援型などでの事業成果の説明）関西地区の一企業 予定
〔ミャンマーの人材活用〕
5）「ミャンマーでの交渉術と人的資源管理」（20年の現地滞在を踏まえた実践的方法）
倭昌輝 日本ミャンマー友好協会理事、ヤマトアジアコンサルティング代表（元住友商事ネピドー所長）
6）ネットワーク交流会（名刺交換会）
7）閉会挨拶 山下賢一 一般社団法人 日本ミャンマー友好協会常務理事
【主 催】 一般社団法人日本ミャンマー友好協会、JICA関西
【共 催】 日本貿易振興機構(ジェトロ)大阪本部、大阪商工会議所
【後 援】 大阪府中小企業診断協会
【参加費】 無料
【定 員】 セミナー 150名（申込受付順）

ASEAN大使講演シリーズ

「ミャンマー経済最新情報」開催のご案内

国際機関日本アセアンセンターは、セミナー「ミャンマー経済最新情報」を開催いたします。最新のミャンマー経済情報を中心としたお話を、駐日ミャンマー連邦共和国特命全権大使トゥレイン・タン・ズィン閣下にご講演いただきます。また、ご講演の後には、皆様とのお名刺交換の場を設ける予定です。
皆様のご参加をお待ちしております。

【日時】 2019年8月6日（火）10:00 ～ 12:00
（受付開始9:30）
【会場】 国際機関日本アセアンセンターアセアンホール
東京都港区新橋6-17-19新御成門ビル1F
https://www.asean.or.jp/ja/ajc/outline/access/

【スケジュール】
10:00 ～ 10:10　開会挨拶
日本アセアンセンター事務総長藤田正孝
10:10 ～ 11:10　基調講演
「ミャンマー経済最新情報」
駐日ミャンマー連邦共和国特命全権大使
トゥレイン・タン・ズィン閣下
11:10 ～ 11:30　質疑応答
11:30 ～ 12:00　名刺交換会
【主催】 国際機関日本アセアンセンター、駐日ミャンマー連邦共和国大使館
【定員】 150名
【対象】 ミャンマー経済及び社会にご関心のある方
【言語】 ミャンマー語・日本語逐次通訳
【参加費】 無料
【担当】 国際機関日本アセアンセンター、調査・政策分析クラスター

イラスト：とみざわ　えりこ

<あまり知られていない最新情報>

ミャンマーの心臓部ヤンゴン市の都市鉄道開発

髙松　重信
当会副会長
JICAミャンマー鉄道政策＆顧問

1. ミャンマーに於ける鉄道の重要性と日本からの支援

ミャンマー連邦共和国（緬国）は2011年の総選挙の結果により民主化に舵を切った。これにより緬国はようやくにし新しい国家造りへ第一歩を踏み出した。つまり、一から国家を造り直すことに着手するようになった。緬国の鉄道も然りであって、一から整備・拡充及び近代化をさせなくてはならない。

しかしながら、緬国は未だ経済・財政・産業基盤などが脆弱であり、独自で鉄道の整備・近代化が困難である。

そこで各国が鉄道支援を行っている。この中で将来の日・緬両国の展望を見定めて、我が国は各国の中で中心となり、緬国鉄道への支援を物心とも官民一体で支援を積極的に行っている。

今回は極最近のニュースとして、緬国経済・産業、文化の心臓部であるヤンゴン都市鉄道開発を紹介する。この事案は中国、韓国などからも提案している中で目下、緬国の要請により我が国はそれの実現調査を開始している。

2. ミャンマー鉄道の現状と改善・近代化事案

(1) 緬国鉄道の現状（2017年度）

緬国鉄道の歴史は古く、開設は1877年5月（明治10年）です。現時点では総営業キロが5878㎞、社員数22,199である。旅客輸送441.09万人/年（12万人/日）、貨物174万トン/年である。

列車は殆どディーゼル機関車の牽引方式と日本から譲渡された気動車による運行である。しかし、機関車及び気動車は老朽化、不十分なメンテナンスにより、夫々の百数十両が稼働していない。今後これらの手当ても早急に行わなければならない。

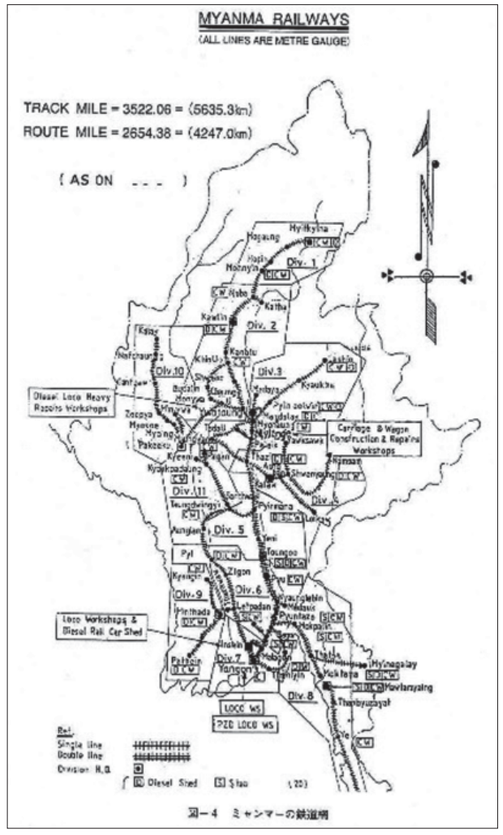
他方、緬国鉄道の営業線路キロ数はJR西日本とほぼ同じであるが、旅客数12万人/日（内ヤンゴン環状線が7.5万人/日）である。JR西日本の500万人/日に比較して余りにも少なすぎる。手を打てば早急に改善できる可能性もある。

(2) 緬国鉄道の改善＆近代化主要Project　※（ ）内は支援国名

1) ヤンゴン・マンダレー（620km）間幹線鉄道近代化（日本）
2) ヤンゴン環状の車両、軌道、信号などの改善（日本）
3) ヤンゴン都市鉄道建設（東西＆南北線）（日本）
4) パゴー（ペグー）～ダウエイなどその他の軌道改良（ADB?）
5) マンダレー～ミトーキナ線の改善（韓国）
6) ヤンゴン～ピー間の改善（ADB）
7) 中国の昆明～ムセ～マンダレー新線計画（中国）
8) ドライポート（ロジェスティクス）（各国）
9) この他、電化、空港線、高速鉄道などが計画されており、今後に実現される予定。

3. ヤンゴン都市鉄道の建設（YUMRT）※YUMRT（Yangon Urban Mass Rapid Transit）

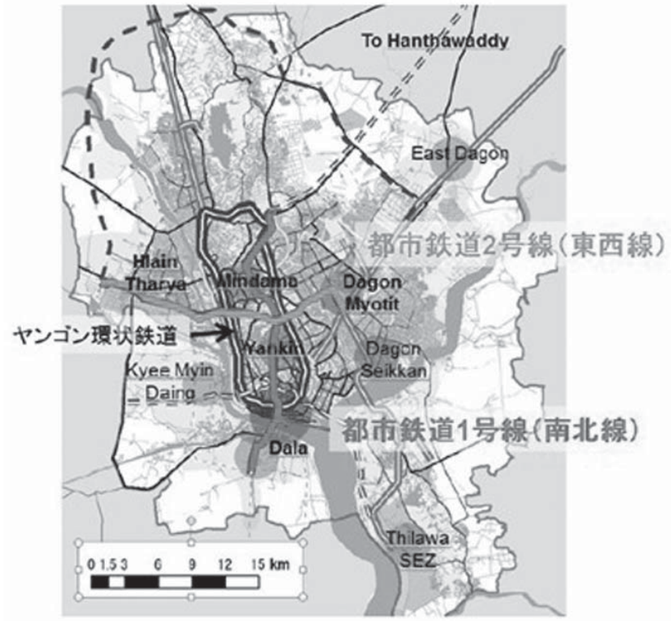
現下、緬国の心臓部と言うべきヤンゴン都市機能の最大問題は交通渋滞であり、これを解消するために緬国政府はヤンゴン都市鉄道（YUMRT）の新設を決定し、我が国は要請により実地調査を既に開始している。以下にその概要を紹介する。外務省の「ヤンゴン都市鉄道整備計画準備調査（YUTRAII）（平成29年12月18日）」なども参考にしている。



図－4　ミャンマーの鉄道網

ヤンゴン都市圏の人口は約560万人（2011年）から約619万人（2016年）に増え、JICAの協力により実施されたヤンゴン都市圏戦略的開発マスタープラン及びヤンゴン都市交通整備プログラム形成準備調査（以下、YUTRAII）（2017年）によれば、2035年には950万人に達することが予測されている。これに伴い、都市圏内交通需要は2013年の653.6万トリップから2035年には1,560.8万トリップと約2.4倍増大すると予測されている。

※2）トリップとは、1人がある目的をもってある地点からある地点まで移動することの総称



ヤンゴン市では、急激な都市化と人口増に伴い自動車保有台数が急増しており、道路面積率が低く公共交通の利便性も低い中で、交通渋滞が深刻化している。現在の公共交通の分担率は、バス49.4%、

鉄道1.1%、フェリーが2.4%と、バスが中心となっているが、これら既存の公共交通機関では、2倍以上急速に増加する交通需要に対応することができない。

YUTRAIIにて目標とされている公共交通シェア（2035年次で60%）を達成するためには、大量輸送機関である都市鉄道の整備が不可欠である。

このため、ヤンゴン地域政府は、更なる需要の増加とモーダルシフトに対応し、安全で快適な輸送サービスを確保するため、南北線及び東西線の都市鉄道の整備を優先事業として位置付けている。

私もJICAミャンマー鉄道政策&技術顧問として、このYUMRT案件に些か関与させて頂いている。

ヤンゴン都市鉄道は図に示されている通り、2つの新路線が計画されている。

即ち、Hlaing Thar Yar（ライン・タヤ）～Toekyaung Lay（トウチャン・レイ）の25kmを結ぶ東西線とDala（ダラ）～Mingaladon（ミンガラドン）を跨る27kmを結ぶ南北線が計画されている。

緬国側で当事案を主体的に関与し責任をもっておられるU Thant Sin Maung運輸通信大臣は緬国の日刊新聞である。The Global New Light of Myanmarの2019年4月6日付けに本件を紹介され、早期の完成を強く望まれている。

JICAは既にこの内の東西線に対するF/S（Feasibility study=実現のための調査）を開始しており、このために緬国のヤンゴン市開発委員会（YCDC）は本年（2019年）5月3日Cut Off Date（土地収用手続）を発布した。

※Cut Off Date=その日以降に権利を行使した場合には請求ができなくなるという意味（新線建設を見越した利益施策を防止する目的）

4. ミャンマー鉄道支援の目的

日本の外交方針は国際協調主義に基づく「**積極的平和主義**」の立場から、平和と共存及び法の支配を旗印にしている。この外交方針に基づき、我が国の政府開発援助（ODA）により、緬国鉄道鉄道支援を物心に渡って実施している。

従って、特に、我が国の財を用いたODA及びGrant（無償）による緬国鉄道支援の目的は次の通に考えられる。

《緬国鉄道の整備・拡充及び近代化へ支援し、鉄道の発展が緬国人々の生活向上と産業・経済及び緬国の発展に多々貢献し、その結果、我が国の国益や企業の益に繋がることを目的とする。》

紙面の都合で具体的な説明は省略するが、この目的を達成できる戦略及び戦術とその取り組のスキームを日・緬で策定し実行することが重要と考えられる。（おわり）

(緬国で運行中のJR西日本キハ181系/2015年)

<ヤンゴン訪問記①>

ミャンマーからますます目が離せない やはりアジアのフロンティア！

会員　滋賀県蒲生郡在住　岡　晃市

今回、ミャンマーへは2015年以来、4年振りの訪問である。ヤンゴン滞在は2019年5月15日から19日までの5日間であったが、訪問の切っ掛けは、近江八幡市でワイヤーハーネスの製造・販売をされている㈱山梶製作所がミャンマーの優秀な人材を雇い入れる一環としてご協力するため、同社の山梶社長と同行した。

ヤンゴンに到着した途端、先ずは、新装なったヤンゴン国際空港に目を奪われ、大渋滞の車列や黄色いブロックできちんと整理された道路の中央分離帯、あちこちで工事中の高層ビルなど、急ピッチで走っているヤンゴンの姿が目に飛び込み、久し振りに心躍る思いであった。

PSLツアーズ社にて
右:メイ・ニョー社長、中:山梶社長、左:筆者

■在ミャンマー日本国大使館訪問（5月16日）

午前10時、山梶社長とカンドーヂ湖畔にある在ミャンマー日本国大使館へ出向き、2018年3月に就任された丸山市郎特命全権大使（仙台出身、65歳）を表敬訪問した。大使執務室に案内され、久しくお目にかかっていなかった丸山大使と固い握手を交わした。お元気そうなご様子で、全身からパワーが溢れているのが感じられた。大使は外務省きってのミャンマー通で、アウン・サン・スー・チー国家顧問兼外相とは20年以上前から旧知の間柄であり、また、軍事政権時代にも外国の外交官の中で特別に信任が厚かったと聞き及んでいる。

山梶社長から今回の訪問目的と将来ミャンマーへの進出について話され、大使からはそれに対する具体的なアドバイスを頂いた。特に大使はヤンゴン郊外のティラワ経済特区（SEZ）の開発には当初から関与されておられ、ここではワンストップサービスを受ける事ができ、ビザや滞在許可なども1週間で簡単に取得できるそうである。また、ここに進出する企業は、ミャンマー企業との合弁を組むことなく、外国企業100%出資の会社として設立する事ができる。それ以外の方法では、2014年にネーピードーからヤンゴンへ移転したミャンマー投資委員会（MIC）の事務局で、計画財務省傘下の投資企業管理局（DICA）の中に設置されているジャパンデスクへの相談がある。同デスクにはJETROとJICAがあり、夫々専任のアドバイザーが駐在し、日本企業のミャンマー進出、投資全般、会社設立等に丁寧に対応してくれるそうである。

その他、ミャンマー商工会議所で、進出企業に適した会議所メンバーを紹介してもらい、合弁を組む方法で成功した日本企業のお話も伺った。山梶社長としては初めての大使館訪問であったが、大使からこうした多方面に渡るアドバイスを頂戴する事ができ、今後に繋がる大きな成果を得る事ができた。

ヤンゴン郊外のクボタ農機具販売会社

■ミャンマー人採用候補者との面談（5月16日）

今回の訪問では、山梶社長の要請で電気工学の専門知識があり、日本語検定2級合格者の確保が大命題であった。訪問に先駆け、私が20年来お付き合いのあるミャンマー大手の旅行会社PEACE SMILE LANDの社長から、ミャンマー国立マンダレー技術大学の卒業生2名を紹介されていた。面談の結果、その2名の候補者は正に今回の条件にピッタリで申し分がなかった。

ここでは面談の詳細を述べる事は差し控えるが、社長として大いに満足され内定を出す事となった。後は日本で彼女達の在留資格認定証明書が無事交付され、速やかに来日できる事を願うばかりである。

コーサントレーディング社経営のスズキショールーム

■ミャンマー企業KOSAN Trading CO.LTD他を訪問（5月17日）

山梶製作所として同社と業務関連のあるミャンマー企業の訪問も今回の目的の一つであった。そこで、私の長年の友人でもあり、既述の旅行会社のオーナーのご主人でもあるアウン・ウィン・タン氏が代表を務めるコーサントレーディング社を訪問した。同社は元々、日本産中古車の輸入販売を行っていたが、ミャンマー政府の中古車輸入の規制が厳しくなったことから、近年では、スズキ自動車ショールームを運営。その他バッテリーやエンジンオイルの輸入販売、マンション経営、運転手付きバスや営業車のレンタルなど、多角的な経営を行っている。特にスズキ自動車は2013年に現地生産を始め、2018年1月からティラワ経済特区で2ヶ所目の新工場を稼働させ、同年1月から6月の累計販売台数は前年の約3.3倍の3600台で市場シェア52%を占めている。現地生産のため、輸入車より20%強の安さも魅力となっており、このショールームも人気車種がずらりと並んでいた。

その他、自動車修理工場、クボタ農機具販売会社、日本語学校などを精力的に視察して回った。　（つづく）

スパイ大作戦？　ビルマ時代の“ほのぼの”エピソード

先生、「ひじき」って、何ですか?

当会監事　藤村　建夫

私が最初にビルマ（現ミャンマー）を訪問したのは、1984年であった。この時は、JICAで研修中の専門家候補の人達5名と一緒にタイ、ビルマ、インドネシアの3か国を訪問した。すでに専門家として活躍している人たちや、相手国の政府担当官に会って、日本人専門家としての心得や改善点などを直接聞いて、近い将来、専門家として派遣されて活動する時の心準備をするためであった。

当時、ビルマは社会主義計画党（BSPP）による一党独裁政治が行われており、人々は監視の目が光っている最中で、ひっそりと暮らしているように思われた。ラングーン（現ヤンゴン）市内には、車も少なく、Kaba Aye Pagoda Roadには1時間に日野製のバスと松田のジープが5～6台通過するのみで、とても静かな町であった。人々は外国人と自由に接触することを固く禁じられており、一緒に食事をすることもままならないのが実情であった。

そのような、半鎖国のような国で技術協力はほそぼそと行われていた。外国人が宿泊できるホテルは国営のInya Lake HotelとStrand Hotelの二つしかなく、JICAはInya Lake Hotelを使っていた。Inya Lake HotelはKaba Aye Pagoda Roadから、重工業公社の工場の間の道を少し入った、Inya Lakeの湖畔にあった。建物は1962年にソ連政府の援助で建設されたが、ソ連との関係が悪化した60年代末頃、ロシア人が建物の図面をもって帰国してしまったために、メンテナンスが極めて困難な状況にあった。このため、部屋のお風呂は茶色の水が出てくるので、しばらくは待たねばならないが、いくら待ってもダメな部屋もあった。

Inya Lake Hotelの各階の階段の傍には、いつも誰かが立っていて、部屋を出入りするたびに、メモを確認しているように見えた。昔、ある外国人が部屋で電話していると、突然屋根から、人が落ちてきたという。部屋の屋根裏で盗聴しているときに、天井が人の重みで落ちてしまったのだろう。

1962年以来、JICAは技術協力を実施しており、保健医療協力と農業協力が主たる協力分野であった。1980年代には短期、長期の技術協力専門家20名ばかりが往来していた。ビルマには感染症が多く、保健医療協力は重要な人道援助として実施されていた。専門家は京都大学の濱島先生がリーダーとなって、幾つかの大学の先生方が感染症の研究と対策の両面で協力していた。

「ひじき」の話しをする濱島先生（左）

濱島先生の医療チームは夏休みと冬休みの時期に、分野別にチームを作ってビルマの保健省の医師たちと協力していた。滞在は、いつもInya Lake Hotelだった。ある年の暮に濱島先生は、電話で奥様と話しておられた。電話はいつも盗聴されており、雑音がひどく、声が聞こえにくいのが問題だった。

「あなた、何か持ってきて欲しいものはありますか?」
「そうだな、ひじきを…先生に託けて届けてくれると有難い」。そういう話しをしばらく続けて、電話が切れた。

翌日、1階のロビーを歩いていると、一人の男が近づいてきた。
「先生、“ひじき”って、何ですか?」
「君は誰だ?どうしてそんなことを聞くんだ?さては、昨日の私の家内との電話を聞いていたんだな? “ひじき”というのは、海藻を煮て作った食べ物だよ。ところで、電話中にうるさい雑音が入って、声が聞こえなくなって、困るじゃないか。どうにかしてくれよ?」
「いや、先生、テープを長く使っているので、ヘッドがすり減って、雑音が入ってしまうんですよ。今度来るときに、Sonyのヘッドを買ってきてくれませんか?」
「何だ、盗聴の助けをしろというのか?」
…その後、濱島先生は、この男が気の毒になって、Sonyの録音機のヘッドを買ってきてあげたそうだ。

Inya Lake Hotelは1995年に再建され、更に2013年にも改築された。5階建て、239室あり、スパ、フィットネスセンター、プール、宴会場、会議室、ビジネスセンターもある。80年代にやってきたJICA調査団員がプールで泳いだら、すぐトラホームになってしまったが、今はそのようなことはなく、子供たちが嬉々としてプールで遊んでいる。

今年訪れたInya Lake Hotelでは、湖に面した広々とした庭で美しい結婚式が行われていた。ミャンマーは確実に良くなっているんだと、実感した。

お庭での結婚式

現在のInya Lake Hotel

書くことは生きること！　ミャンマー詣で、そして遍路道、
今は播磨の里に、新たな時代を迎えてのエッセイです

会員　鳴門市在住
志田 りん

令和に希みて　平成に別れを

この美しい里山にも季節の移ろいが始まりました。それは風情を感じるとはほど遠いものになって、きいろ葉は吹く風にはらはらと儚く落ちてゆく。自然の厳しい変化が私にかくごを教えてくれている様でした。やがて慌ただしい年の瀬となり北風に「しっかりしなさいよ」と背中をポンと押されて頼りない私はつまずきそうになり苦笑するのみでした。しかし原動力となる表現法が新しい年の初めに於いても嬉しい頑張りとなっています。

初詣も長い長い参道を幾度も休みながら国神様にお参り出来て今年の幸せを祈願。なぜか時の流れがとても早く過ぎるのに驚いています。そんな中でも私ゆかりの人々への合掌参拝も元気を貰いながら励んでいます。また誕生日には今年もお祝いがあり贅沢な夢のひと時を迎えたのです。もう諦めていた私には感謝の心で溢れてゆきました。この地は陽光の日が多いかと思います。寒がりの私にはとてもありがたいこと。しかし曇天の日には心がだんだん鉛色になり孤独の海をゆらゆらと彷徨ってしまいます。

いつものバス待ちで父娘のお遍路さんが通過。二人とも白衣姿で幼い女の子の手を繋いでの後姿に「元気でね、頑張ってね。ご飯しっかり食べてね」と沢山のエールを優しく送ってあげました。次に老夫婦が静かに通られて「元気でお参りください」と声かけするとにっこり答えてくださいました。そんな仲の良い姿に嬉しくなります。なぜか人の心に響くものを感じてしまう私がいる。

この時を生きて歓びを感じていたいのかも知れないですね。

今も私はこの地のお遍路さん。発進の地で自分をいつも見つめています。どんなに辛い道でも、歩くのに大変でも進むしかない道がある。平たんでも、でこぼこ道でもゴールまで休み休み歩くのみ。それが私の進む覚悟のロードと思っている。

小春日和の日には色んな小鳥の声が聞こえます。自転車で白衣の若者三人が私の声かけに爽やかに答えて元気良く通りゆく。力強いエネルギーが溢れて来て嬉しい。テンションアップな一日を有難う！

そんな折に「小惑星リューグウ」へは「はやぶさ2号」が到着。サンプルリターン。日本にとって輝かしいニュースとなる。今、近くの花壇ではイエローパンジーの花々が優しく揺れています。頑張りにがんばった平成よさようなら。

家康の名言「人生とは重い荷を背負い長い坂道を歩く如し」に同感。登り切ると私ゆかりの人々が手を差し延べて導いて下さるでしょう。それを楽しみに生きてゆこうと思う。アクティブな心を自ら高めながら新元号をエンジョイしたいと思います。

四月一日それは“令和”と新元号の発表がありました。この希望の年代に少しでも多くの足跡を残せる様に努力しなければとの覚悟です。この発進の地へ迎え入れ、心を理解して頂いたサポーターさんと奥様のご厚情に言い尽くせぬ感謝を申しあげて、この地の遍路旅にお別れをします。もうすでに何百の足跡を残す事が出来ています。やり残しの後悔はありません。

なぜ、お気に入りのこの美しい里から離れるの。友も出来てお別れにも涙が。もっと長く元気で暮らせるはずだったのに、ある日私は倒れた。その場で横たわる私を犬散歩の女性が心配げに見守って下さった。その日から度々その症状が。ここで迷惑はかけられない。どうすれば良いのか幾日も考え続ける。頭が痛くなり始めた。結論は元気な内に故郷へとの思いに至る。もう十分だ、思い残す事はない、参拝の日々にありがとう言おう。元気付けて頂き幸せでした。父も私ゆかりの人々も喜んで貰えたと思いたい。そんな言葉でこの地での足跡は止めましょう。

新元号“令和”での新しく始まる私の足跡作りの旅がスタートです。懐かしく思い出多い阿波の里での経験を生かしながら感謝の心で生きてゆきます。ファイト。頑張れ!

“書くことは生きること”心に響くメッセージを付けて頂きました。それはいかなる時にも大きな励みになり頑張る原動力となる。多くに感謝。　（了）

イラスト：とみざわ　えりこ

※筆者は会報161号に「夢かなうミャンマーへの旅　そして父帰る」。163号に「阿波の里にて、つれづれに」を寄稿

会費納入のお願い

当協会も新体制のもと、順調に運営を始めています。会費未納の方は下記新規口座に納入をお願いいたします。

＜年会費＞ 個人　10,000円
学生　3,000円
法人　50,000円

＜振込先＞
三菱UFJ銀行 新宿新都心支店 普通0376654 日本ミャンマー友好協会　都築治

会員増強をいたしております。お知り合いにミャンマーに興味のある方ございましたらご勧誘ください。

ミャンマー大好きシリーズ

認定NPO法人　神戸ミャンマー皆好会（かいこうかい）を訪ねて

井上卓也事務局長

ミャンマーとの友好を「皆好き!」とズバリ名付けられている団体です。発足は2002年（平成14年）5月。2005年1月にNPO法人認証、2016年2月には認定NPOを取得されています。

神戸の同会事務所に井上卓也事務局長をお訪ねしました。いただいた名刺に　はKobe Myanmar All Like Association と記され、まことに明快です。

早々に「おたくの協会報はいつも参考にさせてもらっています」とのうれしいご挨拶をいただきました。事務所の戸棚の中にはミャンマー友好協会の会報130号（2004年8月）から各号がキチンと大切に保管されていました。ちょっとした感激です。また事務所の壁は多くの感謝状で埋め尽くされ、学校建設や図書の寄付、農業支援事業、日本語教育支援事業、環境保全のためマングローブの植樹支援など多岐にわたる友好活動の成果がうかがわれました。いずれも終戦後ビルマから帰還された皆好会初代理事長の故中尾作蔵様の強い思いが今に引き継がれているとのことでした。

皆好会のパンフレットから中尾様のコメントです：

「19万人が戦病餓死したといわれるインパール作戦に参加し、その後捕虜の期間をも含めて5年間ビルマに滞在しました。この時にミャンマーの人々に大変お世話になり、その恩返しの心から当会を設立しました」と。

とかく過去を言い立てて国と国が外交問題でギクシャクしている昨今、まことに心温まるお話です。戦後70年以上もたっていまだ友好の良き循環が続いていることに感銘を受けずにはおれません。

皆好会は地元神戸では「共進牛乳ブランド」で親しまれている株式会社共進舎牧農園の中にある友好団体です。同社は小野市（兵庫県）に共進ファミリー牧場があり放牧の牛も見られるそうです。神戸の知人に聞くと、レストランもあり名物のジャージーソフトクリームは濃厚な味で評判!とのこと。

同会のますます濃厚な友好活動を願っております。

多くの感謝状が掲示されている事務所

＜10年前からの有難いご縁＞

かって日本ミャンマー友好協会は高野山・成福院様でミャンマー留学生との懇親一泊研修を実施しておりました。多い時には40名もの参加者があり、4月恒例の水祭りとして人気の行事でした。開催の都度神戸ミャンマー皆好会様からパック牛乳をご寄贈いただきました。有難い思い出でございます。

（松尾義久：記）

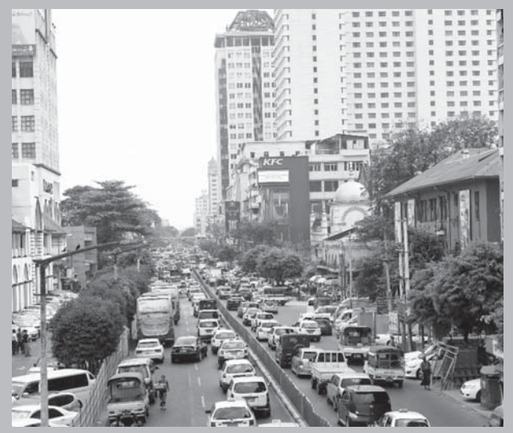
表紙に寄せて①

アジア最後のフロンテイア

この写真は“ミャンマー大好き！”シリーズの取材でNPO法人神戸ミャンマー皆好会様を訪問した折に見せていただいたものです。一目見て迫力があり、当協会の会報の表紙に最適と思い提供のお願いをしたところ快諾をいただきました。事務局長の井上様有難うございました。

ヤンゴン中央駅のすぐ近くにそびえる「さくらタワー」、このあたりがビジネスの一等地といわれています。地上100メートル20階建て、1999年日本企業により建立されています。

アジア最後のフロンテイアといわれ続けているミャンマー。車の渋滞もひどくなりましたが、走っている車もきれいになりました。それにもまして今年の経済成長率が6%以上とは。そのエネルギーの一端が見えてくるような風景です。（編集子）



天空の聖地・高野山で

ビルマ方面戦没者慰霊大法要開催　=成福院=

会報164号をご覧になるウ・ウイジャナンダ大僧正（成福院にて）

今年で54回になる戦没者慰霊大法要が7月20日（土）から21日（日）の2日間、高野山成福院で盛大に開催されました。このような慰霊祭を戦後から今日まで続けてこられた例は、高野山では成福院以外にはなくなってしまったそうです。今や戦後74年、あまりにも長い年月です。かってこの法要の準備実行委員をされていた戦友の方々（当協会設立メンバーでもありました）もすでに亡くなっていらっしゃいます。成福院の摩尼宝塔の中に掲げてある写真には、数年前まで法要に参加されていた兵隊さん方の元気な姿が写っており、懐かしさを禁じえません。

さて慰霊祭の20日は成福院・仰光殿で前夜祭、仲下瑞法法主のお話、来賓のビルマ僧ウ・ヴィジャナンダ大僧正のご挨拶、ミャンマー女子留学生によるビルマ舞踊などが披露されました。また、ミャンマーの子どもたちにもっと本を読んでもらおうと、図書室をつくる活動をしている近畿大学学生のボランティア団体「アポロ」が紹介されました。戦争を身近に知ることのなかった若い世代なのに、悪条件を乗り越えながらの熱心な行動報告には、すがすがしい感銘を受けました。

21日は早朝より摩尼宝塔で炎の護摩供養、次いで奥の院参道にあるビルマ風納骨塔パゴダで墓前祭。

メインのイベントは午前11時より中尾祭典副委員長の司会により開会、摩尼宝塔で厳粛に慰霊大法要が行われました。式次第には戦死者からの手紙の紹介や遺族の追悼の辞もあり、参列者の涙を誘う場面もありました。ご詠歌の奉唱が聞こえる中、式は静かに終わりました。戦没された方々の霊、安らかならんことを念じつつ、この功徳があまねく一切に及ばんことを念じつつ高野山を後にしました。

この法要には日本ミャンマー友好協会から相談役の池田正隆先生、木村関西支部長、編集子が参詣させていただきました。　（松尾義久：記）

摩尼宝塔で参詣者に散華される仲下瑞法法主とウ・ウイジャナンダ大僧正（右から）

ミャンマー留学生の踊りで盛り上がった前夜祭（成福院仰光殿）

高野山奥の院・納骨塔パゴダにて墓前祭

激戦の地に平和資料館開館　「インパール作戦」写真など展示

6月22日開館のインパール平和資料館（日本財団HPより）

【インパール=共同】

第2次大戦中に旧日本軍が英領下のインド北東部攻略を目指したが多数の死者を出し惨敗した「インパール作戦」に関する写真などを展示する平和資料館が22日、インド北東部マニプール州インパール近郊で開館した。

日本財団が約5千万円を支援し、激戦が繰り広げられた丘の麓に建設された。式典には帰還兵の子孫らも日本から参加。

資料館は八角形の建物で約700平方メートルあり、地元住民が周辺で発掘した不発弾など旧日本軍の装備のほか、日本人帰還兵が当時の様子を描いた色紙など約500点を展示。地元のマニプール観光協会が運営し、平和や和解のシンボルとなる施設を目指す。一般公開は29日から。

インパール作戦では第2次大戦中の1944年、ビルマ（現ミャンマー）を占領した旧日本軍が連合国軍による中国への物資補給拠点だったインパールの攻略を狙ったが、3万人以上が死亡したとされる。資料館の開館式は作戦から75年に合わせた式典の一環で、在インド英大使館関係者らも参加した献花式なども併せて行われた。

“不思議なめぐりあわせ”

2017年8月と12月にNHKで放映された「戦慄の記録インパール」は第72回文化庁芸術祭優秀賞を受賞し、当会理事の水戸部麻里さんがプロデュースされたことはご記憶にあると思います。それから2年目の今年6月22日、同じタイトルで「BS1スペシャル完全版・前編・後編」と銘打って1時間40分で再々放映されました。この日は遥かインドマニプールで「インパール平和資料館」が開館した日でもありました。なにやら不思議なめぐりあわせです。やはり繰り返し放映すべき映像遺産ということでしょうか。

無謀といわれたインパール作戦に実際に従軍され、銃弾をくぐり抜け生死の境から奇跡の生還を遂げられた当協会の会員、陸軍大尉、中西喜次さん（元当協会常務理事）と陸軍歩兵軍曹、桒原眞一さん（元常務理事・会報編集担当）などが懐かしく思い出されます。会報編集会議のあとなどに、ご両人から壮絶極まるインパール作戦退却の様子を伺ったことがありました。

（編集子）

イラスト：とみざわ　えりこ

表紙に寄せて②

“支部の掲示板”　目を引いています!

京都・壬生寺様の境内にある当協会の関西支部の広報掲示板。引きも切らず参詣の人が訪れる有名寺院なので、この掲示板が注目されています。展示してあるのはミャンマーの風景写真やロンジー、ラミネート加工した協会報の表紙、壁掛けなどです。京都へお見えになる折は、ぜひ壬生寺さんにご参拝いただき、掲示板も見てやってください。

7月16日には、ここ壬生寺で新選組隊士の慰霊供養祭が盛大に営まれています。隊士の子孫の方の参列もあり、なんと200名の参詣者でにぎわいました。これは昭和から続いている行事で、関東からもお詣りに来られるそうです。今でも新選組ファンが多いのには驚きですね。（編集子）

ミャンマー友好イベントでのミャンマー映画の上映に際し、協賛して頂いた企業の皆様です。大変ありがとうございました。

FUJI xerox

KOJIMA 株式会社 小島組

NiKKi Fron Since 1896

中央土木株式会社

F&P フクダ・アンド・パートナーズ ONE MORE TRY! CO-SOURCING REAL PARTNER

M3L Myanmar 3L Co., Ltd

グローバルビジネスパートナーズ(有)

ミヨシグループ MIYOSHI GROUP & CO.,LTD.

JMEIC ミャンマー経済・投資センター

米粉製粉設備のことなら 西村機械製作所 NISHIMURA MACHINE WORKS CO.,LTD.

EverSeiko

株式会社 ブヨウ

編集後記 "ヤダナー" ရတနာ [yadana]

パガン仏教遺跡　ユネスコ世界遺産に！
当協会も修復基金で支援

日本から遥か遠いカスピ海の西岸の国、アゼルバイジャンの首都バクーで開かれていた今年のユネスコの世界遺産委員会。全日程が7月10日に終わりました。

結果は世界最大級の墳墓といわれる仁徳陵と古墳群が世界遺産に登録が決定し、ニュースでも大きくとりあげられました。

ところが、あまり報道されていませんが、日本だけでなくミャンマーのパガンの仏教遺跡も正式に登録が決まったのです。

ミャンマー中央部、マンダレー南西150キロ、イラワジ川東岸にある古都パガン。11～13世紀にビルマ族による最初の統一国家で「建寺王朝」といわれるほど厚く仏教を敬っていました。

広大な大地に点在する多くのパゴダ、東南アジア三大仏教遺跡の一つとされる遺跡群は今も見るものを圧倒します。

ミャンマー政府は1995年からユネスコに推薦していたのですが、24年を経て今回やっと登録が実現したのです。

当協会は今から22年前の平成9年（1997）10月、新しい事業として『**パガン仏教遺跡修復保存基金**』を立ち上げていました。

当時パガンの遺跡は一見荒廃しており修復、保存もままならず世界遺産登録なんて望むべくもない状況だったのです。一刻も早い対策が急がれていました。

この基金発足1年後の11月には、協会の友好訪問団が訪緬、

個人会員、法人会員から集まった浄財から三百万円を贈呈しております。当時のビルマ政府はこのことを新聞報道などで高く評価してくれました。

その後、ミャンマーへ大型ミッションを派遣するたびにミャンマー政府に寄付金を贈呈してきております。

当協会にとっては、この先人の地道な長年の友好活動が今回の世界遺産登録として結実したことになります。まことに感無量です。この朗報を皆さまと共に大いに喜びたいと思います。

今号も当会の活動（各種行事、新規ご法人、友好団体）をお知らせする広報と、最新鉄道事情や訪問記、軽妙なエッセイなどを紹介させていただきました。　ご執筆いただいた皆さま有難うございました。　ささやかな冊子ながら、有難いことに時おり読者からご感想をいただいております。御礼申し上げます。

編集：松尾義久 matuyosi@a1.mbn.or.jp